

(別紙 1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2770901342		
法人名	社会福祉法人 恭生会		
事業所名	グループホーム 和朗園		
所在地	大阪府高槻市井尻 2-37-8 (電話)072-660-3600		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-2号		
訪問調査日	平成32年8月26日	評価確定日	平成20年10月20日

【情報提供票より】 (20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 11月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	24人	常勤	16人, 非常勤 8人, 常勤換算人14.8

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り	
	5階建て	2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1ヶ月あたり		40,000円

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	9	要介護2	7		
要介護3	2	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 84.2歳	最低	74歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	第一東和会病院・今津診療所・中歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

総合福祉施設の一事業として運営され、整備された運営体制の下、職員育成を重視し、サービスの質の向上につなげている。施設内の多種多様なイベント・レクレーションに参加することで、生活に楽しみごとや張り合いがあり活き活きとした雰囲気が感じられる。また、日常生活の中ではグループホーム独自の取り組みにより、その人らしさを尊重した、家庭的でゆったりとした雰囲気の中で、ご利用者一人一人が役割と活躍の場を模しながら生活している。総合病院が母体であるため緊急事態欧についてもご家族の安心を得ている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価結果はフロアで閲覧し、ミーティングで話し合い、「理念」「チェック表」「家族への報告」など改善について検討し、取り組んだ。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 今回の受審についても、ミーティングで全職員に内容と意義などを説明し、自己評価に全員が参加することにより、各職員がサービスの質について定期的な振り返りができるように取り組み役立っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 家族・自治会会長・地域福祉委員・介護保険課職員などが参加し、2ヶ月に1回開催している。ホーム・ご利用者の状況・行事などの報告、取り組み・課題などについての意見交換などが行われ、運営推進会議で出された要望が実現され、サービスの質の向上に結びついている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) ご家族の訪問時に要望・意見・苦情を引き出せるように、意見箱を設置したり、職員から積極的に声かけを行ったりしている。訪問の少ないご家族には電話で聴取している。運営推進会議でも、意見が出やすい雰囲気作りに配慮している。出された意見・苦情については、申し送りで周知し、必要に応じてミーティング・委員会で検討している。検討結果については、ご家族に説明すると共に、ホーム内に掲示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 自治会には協賛という形で参加し、清掃活動・学校行事・祭りなどの地域活動・地域行事に積極的に参加し、地域に広報誌を配布するなど、地域の一員として受け入れられ交流できるように、働きかけ取り組んでいる。

2. 第三者評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは『愛』と『和』の精神を大切にします。そして、利用者さまの人権を尊重し家庭的な雰囲気の下で『地域の皆さまに信頼され愛される施設づくり』を目指します。」を「和朗園の理念」として掲げている。法人としての理念に、今年度新たにグループホームと地域密着型サービスとしての役割を目指した「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」を加えてグループホーム独自の理念を作り上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新入職員にはまず理念を説明し、理念に基づいた業務を指導している。ホーム内の掲示、理念を記載したカードの配布、ミーティング時の唱和など、職員が日々理念に触れ認識できるように取り組んでいる。また、話し合いの際理念に立ち戻って検討するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には協賛という形で参加し、清掃活動・学校行事・祭りなどの地域活動・地域行事に積極的に参加し、地域に広報誌を配布するなど、地域の一員として受け入れられ交流できるように働きかけを継続している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価結果はフロアーで閲覧し、ミーティングで話し合い、「理念」「チェック表」「家族への報告」など改善について検討し、取組んだ。今回の受審についても、ミーティングで全職員に評価内容と意義などを説明し、自己評価に全員が参加することにより、各職員がサービスの質について定期的な振り返りができるように取り組み役立てている。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族・自治会会長・地域福祉委員・介護保険課職員などが参加し、2ヶ月に1回開催している。ホーム・ご利用者の状況・行事などの報告、取り組み・課題などについての意見交換などが行われ、運営推進会議で出された要望が実現され、サービスの質の向上に結びついている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の職員が運営推進会議に参加するだけでなく、計画作成責任者を中心にホームの職員が市の担当窓口を訪れ、相談・情報交換などを行っている。また、月に1回、市の介護相談員が訪問しご利用者の話を聞き、ホームに報告・意見交換などを行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月に1回、広報誌「ひとときを」により、ホームの行事・ご利用者の様子を定期的に報告している。ご家族の訪問時には、ご利用者の心身の状態・生活の様子などを個別に詳細に報告するように努めている。体調の変化・計画の変更など、随時の報告については、主に電話で個別に行っている。</p>		<p>訪問の少ないご家族にも、ご利用者一人一人の様子を定期的に個別に伝えられるような取り組みの検討を期待する。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の訪問時に要望・意見・苦情を引き出せるように、意見箱を設置したり、職員から積極的に声かけを行ったりしている。訪問の少ないご家族には電話で意見をうかがっている。運営推進会議でも、意見が出やすい雰囲気作りに配慮している。出された意見・苦情については、申し送りで周知し、必要に応じてミーティング・委員会で検討している。検討結果については、ご家族に説明すると共に、ホーム内に掲示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ご利用者のダメージを考慮して異動は最小限にとどめているが、やむを得ない異動に備えてクラブ活動・行事などの際の交流を通して施設職員全員がご利用者と馴染みの関係ができるように配慮している。異動の際は広報誌での紹介・写真の掲示などにより、ご利用者・ご家族に周知を図っている。職員間のコミュニケーションを十分にとり悩みやストレスが蓄積しないように配慮し、研修会・委員会などにより成長の機会を提供することにより、職員の離職を防ぐ取り組みを行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づいた施設全体の内部研修に参加すると共に、ホーム独自の勉強会を定期的に行っている。外部研修については案内を掲示し、参加者を募り学びの機会を提供し、参加者の報告書の回覧・伝達研修により研修内容の共有を図っている。新入職者にはユニットリーダーが個別に実地指導を行うと共に、個別対応や柔軟な支援がについては職員全員が日々学びの姿勢を持ち続けられるように意識付けしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にグループホームの連絡会やネットワークはないが、高槻市医療保険福祉連絡会に参加し、同業者との交流・連携を図り、サービスの質の向上に繋げている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みがあったご家族とは定期的に連絡をとり、入居が見込まれた段階で、自宅などを訪問したり、デイサービス・ショートステイへの参加などを通して、ご利用者が施設・職員と馴染みの関係を構築し、円滑にサービス利用が開始できるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事での協働、趣味・得意分野での活躍の場面を通して、職員がご利用者から学びながら、生活場面を共有していけるように取り組んでいる。ご利用者同士も各自の力量を發揮し共に支え合う姿が見受けられた。また、ご利用者と職員・ご利用者同士が、日々のコミュニケーションや外出などの体験の中で喜怒哀楽が共有できるように取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のご利用者・ご家族との面談の際、生活歴・生活習慣・趣味嗜好など詳細に情報収集し、一人ひとりの思い・希望・意向を把握できるように取り組んでいる。入居後もコミュニケーションの中で、新たな意向や意向の変化を汲み取り、介護計画に反映している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族・計画作成責任者・担当介護職員が出席し、サービス担当者会議で意見を出し合い、ご利用者・ご家族の意向に基づいた介護計画を作成するように取り組んでいる。ご家族の出席が困難な場合は電話などで意向を確認した上で作成するように配慮している。作成に際しては、その人らしい生活を支援する個別性を重視している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成者が毎月1回モニタリングを行い、利用者の状況に変化が見られるときは、家族の面会時に話し合いを行い、計画の見直しをしている。定期的には、半年に1回ユニット合同でカンファレンスを行い見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者・ご家族の状況や要望に応じて、負担となる通院などについては臨機応変に対応している。又、併設施設から看護師が訪問し健康管理を行い、急な体調の変化にも迅速に対応し入院を回避するよう努めている。ご利用者の希望する個別の外出にも職員の勤務体制を整えて柔軟に対応している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に協力医療機関に受診しているが、ご利用者・ご家族の希望を聞き、以前からのかかりつけ医に継続して受診できるようにしている。系列母体の病院とは、夜間対応や緊急時の協力体制が整っている。歯科は必要時に往診があり、週1回歯科衛生士が訪問し、口腔ケアを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期に向けては事業所の方針として「看取りの指針」を作成し、系列施設との協力体制を整え、ご利用者・ご家族が安心してサービスを利用できるように取り組んでいる。今後重度者・終末期のご利用者への対応が必要になった場合に備えて、現在取り組んでいる。</p>		<p>事業所としての方針を共有し、職員が統一したケアを提供出来るように研修の機会や話し合いを持ち、チームケアを確立できるよう取り組むことが望まれる。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>事業所の基本姿勢として、全職員がご利用者1人ひとりの尊厳を大切に、個別の対応を心がけるように日々の業務の中で常に心がけている。又、個人情報保護についても勉強会を開き、保護法の理解と秘密保持の徹底が図られている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の流れの中で食事の時間はおおむね決められているが、その他の日課についてはご利用者一人ひとりのその日のペースでゆったりと過ごせるような支援がされている。その日のご利用者の体調・希望が把握できるように、状態観察とコミュニケーションに心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の管理栄養士が献立を作り、利用者が職員と一緒に買い物に行く感覚で施設まで食材をとりに行き、その日の料理担当が職員と一緒に調理し、同じテーブルを囲み楽しく食事をしている。月に3回はおやつ作りを楽しんだり、お誕生会は利用者の希望を聞きメニューを決めて一緒に作っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は大まかには午後に設定しているが、その日の希望に応じて柔軟に対応している。季節ごとの入浴剤を使いゆったりとくつろいで入浴を楽しめるように工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の能力に応じて一人ひとり担当を決め、炊事当番・洗濯当番など、当番制で役割を分担し、楽しんで取り組めるように支援している。また、併設施設のレクリエーション・クラブ活動に参加したり、職員のギター伴奏で歌を歌うなど、数多く楽しみごと・気晴らしの機会が提供されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、2・3名が偏りなく交代で、散歩・買い物・喫茶・外食など、外に出る機会を作っている。又、近くの畑に行き野菜を収穫するなど季節を感じる事が出来るように支援している。天候・体調により外出が困難な時も、広い施設を利用して、外気に触れる工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各フロアの自動ドアは職員が操作し開閉している。職員は常に利用者の行動や気配を察知しすぐに対応できるように心がけている。ベランダへは自由に出入りでき閉塞感は感じられない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、年2回利用者も参加し施設合同での防災訓練に参加している。又、グループホーム単独での夜間想定した訓練を継続して実施している。消防団との連絡体制をとり、災害時の地域の避難場所の確認も行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立を参考に調理し、毎回食事をチェックし表に記録し摂取量から歯の具合や嚥下状態を把握している。又、水分量についても其々のコップの量をおおまかに把握しチェックしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁や廊下には、職員と一緒に作った季節ごとの飾り物が飾られ季節感を感じられるように工夫している。又、台所からご飯の炊けるにおいや食器の音が聞こえるなど、家庭的な雰囲気ですぐ居心地よく過ごせる場所となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドとクローゼットが備え付けられている以外は利用者の馴染みの家具などが持ち込まれ、以前の生活と変わらずその人らしく過ごせるように配慮している。又、畳で布団の生活を希望するご利用者には柔軟に対応している。		

は、重点項目。